

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(1) 医療健康	新潟大学	医学・医療全般	・クラスノヤルスク国立医科大学 ・極東国立医科大学 ・北東連邦大学 ・サンクトペテルブルク国立大学 ・太平洋国立医科大学 ・カザン連邦大学 ・カザン国立医科大学 ・モスクワ国立大学 ・モスクワ国立第一医科大学(セチェノフ大学)	・新潟県 ・新潟市 ・環日本海経済研究所(ERINA) ・株式会社 第四銀行 ・三井物産株式会社 (日露医学医療交流コンソーシアムにいがた)	①大学間協定に基づく学生交流 ・夏期医学生交流プログラムにて10名の学部生を派遣、22名の学部生を受入。医学研究実習プログラムにおいては4名の学部生を派遣。 ・モスクワ国立第一医科大学(セチェノフ大学)にて開催された外科オリンピックに2名の学部生が参加。 ②企業・地方自治体等との連携 ・下記③に記載のハバロフスクでのイベントにおいて、「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」加盟団体によるセッション・展示等を実施。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・国費外国人留学生1名を受入。 ・11月にハバロフスク(極東国立医科大学)において、「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」と同大の共催により、一般市民向けに医療や健康に関わる公開講座「極東医療・健康セミナー」を開催し、267名の参加を得た。	山川 詩保子
(1) 医療健康	筑波大学		・ロシア国立研究医科大学 ・モスクワ国立大学 ・カザン連邦大学 ・ノヴォシビルスク国立医科大学 ・太平洋国立医科大学 ・ロシア各地の病院		①大学間協定に基づく学生交流 ・ロシアの医科系大学、医学部を有する大学と医療実務研修などの双方向の交流を実施。	未定
(1) 医療健康	金沢大学	脳神経科学 予防医学 がん医学 循環医学	・カザン連邦大学 ・クラスノヤルスク国立医科大学 ・サンクトペテルブルク国立第一医科大学 ・タタルスタン共和国がんセンター	理化学研究所	①大学間協定に基づく学生交流 ・2017年度から実施している世界展開力強化事業(ロシア)の体系的で多層的な学生交流プログラム「先制医療プログラム」に今年度はクラスノヤルスク国立医科大学、サンクトペテルブルク国立第一医科大学、サンクトペテルブルク国立大学及びモスクワ国立大学から博士課程学生が6名参加し、ラボローテーションによる先端技術の修得及び相互の大学における交流のさらなる発展につなげた。 ・また、2019年9月にはサンクトペテルブルク国立第一医科大学との共催でシンポジウムを開催し、金沢大学から博士課程の大学院生と教員が4名ずつ参加し、大学院生はポスター発表を実施し、それにより、今後の共同研究などに繋げることができた。	原 章規

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(1) 医療健康	長崎大学	被ばく医療	・北西国立医科大学 (・ゴメリ国立医科大学 ・ペラルーシ国立医科大学)	・福島県立医科大学 ・福島県川内村 ・福島県富岡町 ・福島県大熊町 ・原子力安全研究協会 ・アルパイン株式会社	①大学間協定に基づく学生交流 ・北西国立医科大学 学生交流協定(2013年～) 学生の相互派遣 (受入)10月「川内村実習」5名、12月「放射線防護学Ⅰ・Ⅱ」5名 (派遣)1月「生物統計学」9名(うち留学生7名) ・講義を3大学の学生が共修(10月 川内村実習及び救急医学実習-福島、12月 放射線防護学Ⅰ・Ⅱ-長崎大学、1月 生物統計学-サンクトペテルブルク) ・衛生テレビ会議(3大学3度) ②企業・地方自治体等との連携 ・受入留学生は災害・被ばく医療科学共同専攻学生と共に福島県川内村の長崎大学・川内村復興推進拠点、長崎大学、川内村役場及び原子力安全研究協会が共同運営しているKNNセンターにおいてフィールド実習を行った。 ・2020年3月に予定していたワークショップ(川内村報告会)については、新型コロナウイルス感染症(COVID-2019)の拡大影響のため、中止とした。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・日露大学協会総会(2019/9/22-9/24 ロシア) ・日露学生フォーラム(2019/9/22-9/27 ロシア) ・日露産官学連携実務者会議(2020/1/31 東京) ・災害・被ばく医療科学共同専攻のロシア語版HPの開設、同専攻のロシア語版パンフレットを各協力機関、ロシア語圏の大学、ロシアでの日本留学フェアへ配布を行った。	高村 昇
(1) 医療健康	東海大学	ライフケア	・極東連邦大学 ・サハリン国立大学 ・モスクワ国立大学 ・国立研究大学高等経済学院(HSE) ・極東国立医科大学 ・サハリン国立大学 ・極東連邦大学附属病院 ・北斗医療センター(ウラジオストク) ・北斗リハビリセンター(ウラジオストク)等	・神奈川県伊勢原市役所 ・未病センター(神奈川県)	①大学間協定に基づく学生交流 ・受入留学生:モスクワ国立大学(2018年9月～2019年7月:2名、2019年4月～7月:4名)、極東連邦大学(2019年4月～7月:5名、2019年9月～2020年3月:6名)、国立研究大学高等経済学院(2019年4月～7月:2名、2019年9月～2020年3月:1名)、サハリン国立大学(2019年4月～7月:1名、2019年9月～2020年3月:1名)、極東連邦大学(2020年2月:13名)、極東国立医科大学(2020年2月:2名)、計37名。 ・派遣留学生:モスクワ国立大学(2018年9月～2019年7月:4名、2019年9月～2020年7月:2名)、極東連邦大学(2019年9月～2020年1月:2名)国立研究大学高等経済学院(2020年1月～3月:6名)。 ・2020年2月健診人材実務者研修(学生5名を極東連邦大学附属病院にてプログラムに参加するために派遣)予定であったが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大影響で中止。 ・受入留学生は、2020年2月に東海大学医学部付属病院にて研修を実施。5名の健診人材実務者留学生を受入。 ②企業・地方自治体等との連携 ・2019年9月からの受入留学生は、神奈川県伊勢原市と連携し「伊勢原市未病センター」および伊勢原市役所にてインターンシップを実施。 ・健診人材実務者研修派遣学生は、ウラジオストク北斗医療センター、および北斗リハビリセンターにてインターンシップを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大影響で中止。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2020年2月:連携大学プログラム委員会開催(モスクワ国立大学、極東連邦大学、サハリン国立大学、国立研究大学高等経済学院、極東国立医科大学より委員各1名参加)。 ・2020年2月:中間報告シンポジウム・ジョブフェア開催。	山本 佳男
(1) 医療健康	福島県立医科大学	被ばく医療	・北西国立医科大学 (・ゴメリ国立医科大学 ・ペラルーシ国立医科大学)	長崎大学	①大学間協定に基づく学生交流 ・2019年4月～5月に学部学生2名をゴメリ国立医科大学・ペラルーシ国立医科大学に派遣、単位互換なし。 ・2019年1月～2月に修士学生2名を北西国立医科大学に派遣。単位互換を予定(長崎大学と共同)。 ・2019年10月川内村実習における留学生受入(長崎大学と共同)。	和栗 聡

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(2) 都市づくり	北海道大学	寒冷地適応型省エネ技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 極東連邦大学 ・ 北東連邦大学 ・ イルクーツク国立大学 ・ サハリン国立大学 ・ 太平洋国立大学 ・ サンクトペテルブルク国立建築土木大学 	RJE3特別演習I（寒冷地建設技術フィールドスクール）の自治体・協力企業等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道庁 ・ 北海道開発局 ・ 恵庭市 ・ 株式会社 北海道建設 ・ 株式会社 ドーコン ・ 北海道立総合研究機構 建築研究本部 	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組である北海道大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）であるRJE3プログラム <ul style="list-style-type: none"> ①大学間協定に基づく学生交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道大学サマーインスティテュートを開催（RJE3特別演習I（寒冷地建設技術フィールドスクール））。 ・ ラーニングサテライト事業（RJE3 日露デザインスクール）。①大学間協定に基づく学生交流 ②企業・地方自治体等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ RJE3特別演習I（寒冷地建設技術フィールドスクール）にて道内建築系企業、研究機関、行政機関等を訪問。 ・ RJE3 日露デザインスクールにてハバロフスク市内建築・デザイン企業を訪問。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年2月18～20日に太平洋国立大学で開催された第20回国際フォーラムNew Ideas of New Centuryに参加。 HaRPプログラム <ul style="list-style-type: none"> ①大学間協定に基づく学生交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年10月28日、サンクトペテルブルク国立建築土木大学と部局間協定を締結。今後の学生交流について意見交換を行った。サンクトペテルブルク国立建築建設大学にはRJE3プログラムに関連したサマーインスティテュートを紹介しており、学生受入を検討中。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年10月30日、ウラル連邦大学建築建設学部を訪問し、北海道大学大学院工学研究院とHaRP事業を紹介、Alyokhin副学部長等と今後の学生交流について意見交換を行った。 ・ 日本が2017年の「パートナー国」となった、エカテリンブルク市の「イノブコム2017」の「北海道ブース」において、道内企業等27社による道内の技術や製品のPR展示を行うとともに、北海道大学大学院工学研究院の瀬戸口 剛教授より北方圏のまちづくりの研究成果も紹介し、本道の魅力をロシア全土に向けて発信した。それに続いて、高層ビルやユニークな建造物の設計、建設、資金調達、運営に特化した専門的な展示会である2019年10月の「100+フォーラム」瀬戸口 剛院長、渡部助教が参加。国連のWorld Cities Dayの行事がそのフォーラムを場として開催された10月31日に瀬戸口 剛院長がパネリストとして「Creating a Comfortable Urban Environment – A Way to Improve the Quality of Life」セッション（ウラル連邦大学建築建設学部主催）に参加し、「Desirable High-rise Building Form Based on the Snow and Wind Tunnel Simulations for Winter Cities」について報告。2019年11月1日、ノヴォシビルスク国立建築土木大学（Sibstrin）を訪問、北海道大学大学院工学研究院とHaRP事業を紹介、学生交流事業の可能性について意見交換を行った。 	瀬戸口 剛 渡部 典大

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(2) 都市づくり	北海道大学	寒冷地適応型省エネ技術	・極東連邦大学 ・サンクトペテルブルク国立建築土木大学 ・ノリリスク国立産業大学 ・ノリリスク市、ノリリスク市発展局 ・GradSovet LLC	・札幌市立大学 ・北海道科学大学 ・北方建築総合研究所(道総研) ・北海道総合研究調査会(HIT) ・北海道 ・札幌市 ・北海道の建設企業4社	①大学間協定に基づく学生交流 ・2019年11月18日、10月に部局間協定を締結したサンクトペテルブルク国立建築土木大学と学生・研究交流について打ち合わせ。 ②企業・地方自治体等との連携 ・2020年10月10～12日にウラジオストクで開催された国際建築環境フェスティバルGreenFestに北海道大学の教員2名・学生3名が参加。持続可能な都市づくり、パッシブハウス技術について情報・意見交換。 ・2019年11月15日に、世界冬の都市市長会(WWCAM)の事務局が置かれている札幌市総務局国際部国際課との連携の一環として、ノリリスク市で開催されたWWCAM実務者会議、16日にノリリスク国立産業大学と北海道大学が共催した日露パネルディスカッションに参加。同日、WWCAM実務者会議のサイドイベントとして行われたトークショーに出演し、学界・人材育成側を代表する有識者として冬の都市である札幌市の住宅環境整備について発言。WWCAM実務者会議には現地の有力企業(世界有数の鉄金属生産企業)Norilsk Nickel社の関係者も参加。他のロシアの地方自治体(WWCAM会員都市であるノヴォシビルスク市、マガダン市等)と交流。永久凍土地帯の建設現場を視察。 ・2019年11月、北海道総合政策部国際局国際課ロシアグループとの連携の一環として、北海道とサンクトペテルブルク市との協力発展に関する第3回ワーキンググループ会合(19日)、10月に部局間協定を締結したサンクトペテルブルク国立建築土木と北海道総合研究調査会(HIT)が共催した大学寒冷地建築に関する意見交換会(19日)に参加。大学間交流(相互のサマースクールなどのショートプログラムへの学生派遣、学会への参加、研究交流等)に加えて、北海道、サンクトペテルブルクそれぞれが企画している歴史的建造物の修復改修プロジェクトに大学関係者が関わる可能性、担う役割等について論じた。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年11月18日、サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部で開催された国際セミナー(Arctic Workshop)で発表。サンクトペテルブルク国立大学の他の学部を含めて、教員約10名、学生約20名参加約30名参加。	森 太郎
(2) 都市づくり	新潟大学	・日本住宅企業のロシア進出の展望と課題 ・日露住宅市場比較 ・極東ロシア地域等におけるロシアの産業多様化・産業振興(住宅、観光、地場産業、ネットビジネスほか) ・少子高齢化	・極東連邦大学 ・サンクトペテルブルク国立経済大学 ・ハバロフスク国立経済法科大学 ・極東国立交通大学 ・カザン国立建築大学(検討中)		①大学間協定に基づく学生交流 ・2019年5月極東連邦大学と大学間交流協定締結し、少子高齢化の対策について共同研究を開始。その成果を2022年ごろに図書刊行予定。 ・2019年8月極東連邦大学工学部都市づくり建築学科と極東地域の都市づくり・住宅開発における日露協力の可能性について、共同研究協定を締結した。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年9月カザン国立建築大学を訪問し、ロシアにおける日本住宅企業のビジネス展開と課題についての講演を行った。学生視聴者数50名。同大学建築経済学科と共同研究に向けた話し合いを継続している。 ・2019年8月に新潟大学サマースクールへ、サンクトペテルブルク国立経済大学並びに極東連邦大学(双方とも道上の担当校)から来日、6名程度受け入れを行い、1コマ経済学部にて授業を実施した。 ・2019年8月に経済学部国際交流事業として、極東国立交通大学で開催された日・台・韓・露4か国学生サマースクールに派遣10名(ネットビジネスについての英語による授業)。	道上 真有
(2) 都市づくり	東京大学	社会基盤学	・モスクワ国立大学 ・サンクトペテルブルク国立大学		前任の佐藤慎司教授から加藤浩徳教授が引き継いだ。2019年度まで、東京大学が実施してきた大学の世界展開力強化事業「自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム(STEPS)」が終了したが、JASSOのプログラムを利用して、東京大学からモスクワ国立大学、サンクトペテルブルク国立大学への学生派遣を計画した。しかし、参加希望学生がいなかったため、実質的な活動は行っていない。	加藤 浩徳

セッション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(2) 都市づくり	長岡技術科学大学	・交通計画 ・都市計画 ・地盤工学 ・水工学など	・モスクワ国立大学 ・極東国立交通大学		①大学間協定に基づく学生交流 ・2019年8月に極東国立交通大学の学生1名をNASSYEプログラム生として受入。 ・2019年9月にモスクワ国立大学と大学間交流協定及び学生交流覚書を締結し、同大学心理学部及び計算数理サイバネティクス学部へ1名ずつ学生を5カ月派遣。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2020年3月に短期インターンシッププログラム生としてモスクワ国立大学の学生2名(3週間、交通心理実験の計画と実践)、極東国立交通大学の学生2名(2週間、交通シミュレーションを用いた交通対策評価法の習得)を受入。	鳩山 紀一郎
(2) 都市づくり	北海道大学	・北極域の持続的開発 ・永久凍土生態系	・北東連邦大学 ・北東連邦大学のベンチャー企業 ・ロシアの民間企業	・国立極地研究所 ・海洋研究開発機構(JAMSTEC) ・日本の官公庁 ・日本の企業	①大学間協定に基づく学生交流 ・2019年8月4~14日、2017年より共同教育プログラム(Joint Master Course Program on Sustainable Development of the Arctic)を実施している北東連邦大学と共同で北極域永久凍土生態系に関するサマースクール(北海道大学の2019年度ラーニング・サテライトプログラム)を実施(北極域永久凍土生態系実習)。 ・2020年2月に北東連邦大学でウィンタースクールをヤクーツク市において開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大影響で中止。 ②企業・地方自治体等との連携 国立極地研究所、JAMSTEC、民間企業及び大学ベンチャー企業、官公庁の研究所等と連携(官民団体の関係者を招待するオープンセミナー開催など)。J-ARC Netのプログラムでは、大学のみならず、企業や官公庁も含めて若手の人材育成を行っている。	杉本 敦子
(2) 都市づくり	札幌市立大学	・空間デザイン ・寒冷地デザイン ・環境共生デザイン	ノヴォシビルスク国立建築デザイン芸術大学		③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・「Tea House in Novosibirsk」:滞在や交流を目的とした現代の仮設「茶室」のデザインと制作。 2019年10月14~18日 ・ノヴォシビルスク国立建築デザイン芸術大学建築デザインコースと札幌市立大学デザイン学部人間空間デザインコース山田良研究室による共同スタジオ及び作成制作(計約20名)。 ・原寸作品(複数作品)を制作。 ・作品プロセス・講評・レクチャーを通じた学生間、教員間の交流。 ・公共空間(広場)での作品展覧会による市民交流。	山田 良
(2) 都市づくり	北海道大学				*詳細は「(4) エネルギー開発」の欄に記載	高橋 浩晃
(3) 中小企業交流	北海道大学	・北極域の持続的開発 ・永久凍土生態系			*詳細は「(2) 都市づくり」の欄に記載	杉本 敦子
(3) 中小企業交流	北海道大学	触媒	・ロシア科学アカデミーシベリア支部ボレスコフ触媒研究所(BIC) ・LLC Nanocomposite Materials Group of companies(NCM) ・LLC SYGMA-NOVOSIBIRSK		②企業・地方自治体等との連携 ・ロシア(CIS諸国)の先端技術に焦点をあて、鉱工業製品の輸入販売や、ロシア科学アカデミーの専門研究所及び、ロシア企業と協力し新技術・製品の開発を進めている株式会社ミール リミテッドの清水洋社長から紹介を受けたロシア企業ナノコンポジットマテリアル株式会社NCM(ナノ微粒子・ナノ複合材料の開発と製造)と北大・触媒科学研究所との交流を開始した。 ・NCMが特に北大・触媒科学研究所・福岡教授の「フルーツの保存に関する研究」に非常に興味を持っており、北大訪問の意向があるので、触媒科学研究所に引き、交流を開始した。 ・上記交流を通してNCMと触媒科学研究所の間で共同研究に発展させたい。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・上記案件とは別に、ノヴォシビルスク国立工業大学からプラズマ溶射に関する共同研究の可能性を持ちかけられているので、例年のサッポロ・ビジネス・レセプション in ノボシビルスクに参加し、日本の研究機関及び企業とのマッチングを図りたい。	西田 まゆみ

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(3) 中小企業交流	金沢大学		カザン連邦大学		③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・金沢大学の日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム「基礎科学プログラム」「先端科学技術プログラム」の参加者のうち12名が、カザン連邦大学留学中にロシアでの企業見学(Ford Sollers Elabuga組立工場(自動車メーカー))に参加した(2019年8月)。	大友 信秀
(3) 中小企業交流	創価大学		・モスクワ国立大学 ・極東連邦大学		①大学間協定に基づく学生交流 ・極東連邦大学は、9月に1名受入。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ロシア人の私費留学生(大学院生)に日本企業でのインターン志望についての聞き取りを行った。	小崎 晃義
(3) 中小企業交流	大阪大学				*詳細は「(8)言語・文化・観光」の欄に記載	藤原 克美
(4) エネルギー開発	北海道大学	・地震 ・火山 ・津波 ・防災	・ロシア科学アカデミー本部・研究所群(6カ所程度) ・極東連邦大学	・外務省 ・文部省 ・内閣府 ・高知大学 ・鹿児島大学	①大学間協定に基づく学生交流 ・極東連邦大学と1995年から研究協力を実施。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・日露青年交流センター交流事業で極東連邦大学博士課程院生が2018年11月から2019年10月31日まで滞在。2019年5月末に開かれる学会で、津波防災関係の発表。 ・極東連邦大学工学部のShestakov部門長を2019年7月に招聘しワークショップを中心とする共同研究を実施。 ・7月27日にミニワークショップを開催。他国(中国)・高知大学・鹿児島大学の教員、現在日露青年交流事業で来日している極東連邦大学の大学院生、理学研究院の大学院生が参加。	高橋 浩晃
(4) エネルギー開発	北海道大学				*詳細は「(2)都市づくり」の欄に記載	杉本 敦子
(4) エネルギー開発	東海大学	・ガス ・原子力	私立ガスプロム小中高等学校(旧名公共株式会社ガスプロム附属教育センター)	・東海大学付属浦安高等学校・中部部 ・東海大学付属高輪台高等学校・中部部 ・東海大学付属静岡翔洋高等学校・中部部	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年11月5日～9日、私立ガスプロム小中高等学校の教職員6名、生徒10名から成る代表団を受入。代表団は東海大学との協定に基づく学校交流を目的とする研修団で、2008年以来、日本とロシア相互に訪問し合い、学術・文化における学校間交流を続けている。代表団は11月8日に東海大学付属高輪台高校を訪問し、ロシアの文化紹介を行い、教職員、生徒間による活発な交流を行った。 ・2019年10月3日、東海大学付属高輪台高等学校の生徒が2名、私立ガスプロム小中高等学校(モスクワ)を訪問。校長等の報告会、生徒のプロジェクト発表会に出席、校内を見学。	山本 佳男
(4) エネルギー開発	室蘭工業大学	バイオマス	極東連邦大学	・北海道大学 ・九州大学 ・三笠市	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・極東連邦大学の窓口を複数に拡大した。	安居 光國
(5) 産業多様化促進	北海道大学	・地震 ・火山 ・防災			*詳細は「(4)エネルギー開発」の欄に記載	高橋 浩晃
(5) 産業多様化促進	小樽商科大学				*詳細は「(6)極東産業振興」の欄に記載	小林 友彦
(5) 産業多様化促進	小樽商科大学	・サプライチェーン ・生産ラインの最適化 ・産業の多角化	・サンクトペテルブルク国立大学 ・モスクワ国立大学	札幌大谷大学	*詳細は 札幌大谷大学の山田助教の欄に記載	旗本 智之 玉井 健一

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(5) 産業多様化促進	札幌大谷大学	・サプライチェーン ・生産ラインの最適化 ・産業の多角化	・サンクトペテルブルク国立大学 ・モスクワ国立大学	小樽商科大学	②企業・地方自治体等との連携 ・2019年9月に実際に日産様のサンクトペテルブルク工場へ伺い、工場を視察、NISSANのロシアで行っている生産活動及び人材育成に関するインタビュー調査を行った。また、サンクトペテルブルク日本商工会定例会でHaRP活動の紹介および今後の展望に関する発表を行った。JETRO様訪問ではロシアの最近の経済概要、サンクトペテルブルク周辺のビジネス動向に関するヒアリング調査を行った。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・2019年3月にサンクトペテルブルク大学高等マネージメントスクールリサーチセンター、サンクトペテルブルク日本センターを小樽商科大学の教授2名とともに訪問している。また、同時にモスクワ国立大学ビジネススクールSergei Shaposhnikov准教授ともオンライン会議を行い、2019年7月に日本へ招待し、小樽商科大学で、「日露経済協力の発展可能性ー今後の挑戦と機会についてー」をテーマとした講演会を行った。	山田 政樹
(5) 産業多様化促進	北海道大学	北極域の持続的利用 海洋工学 海洋環境 社会基盤	・極東連邦大学 ・北東連邦大学 ・北方（北極）連邦大学 ・ノリリスク国立産業大学 ・サンクトペテルブルク国立大学 ・北極南極研究所	・北海道 ・北海道総合研究調査会（HIT） ・札幌市 ・北海道経済同友会	①大学間協定に基づく学生交流 ・2019年8月4～14日、北海道大学の2019年度ラーニング・サテライトプログラムである北極域永久凍土生態系に関するサマースクールを北極域研究センターの杉本敦子教授とともに北東連邦大学で実施（北極域永久凍土生態系実習）。 ・2020年2月に北東連邦大学でウィンタースクールをヤクーツク市において開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。 ②企業・地方自治体等との連携 ・北極海航路の利活用に関し、北海道経済同友会、港湾管理者、港湾物流関係企業、北海道、との連携のもと、ロシア関係者との情報交換を実施。 ・2019年6月12日、ロシア国営企業であるロスアトム社の特別講演が行われた、国土交通省の「北極海航路に係る産学官連携協議会（第9回）」で報告。 ・2019年11月12日、在ウラジオストク日本国総領事館を訪問、沿海地方に進出している日本の企業支部・工場と現地の大学との連携事業等について情報収集。 ・2019年11月12日、極東連邦大学工学部を訪問、北極域研究センターの活動状況を紹介、相互のショートプログラムへの学生・研究者の派遣などについて情報交換。 ・2019年11月15日に、世界冬の都市市長会（WWCAM）の事務局が置かれている札幌市 総務局 国際部 国際課との連携の一環として、ノリリスク市で開催されたWWCAM実務者会議実務者会議、16日にノリリスク国立産業大学と北海道大学が共催した日露パネルディスカッションに参加し、セッション4のモデレーターを務めた（約20名参加）。WWCAM実務者会議に参加した現地の有力企業（世界有数の鉄金属生産企業）Norilsk Nickel社、他のロシアの地方自治体（WWCAM会員都市であるノヴォシビルスク市、マガダン市等）の関係者と交流。北極海航路の要港があるドゥディンカ市を訪問。ノリリスク市付近の永久凍土地帯の建設現場を視察。 ・2019年11月、北海道 総合政策部 国際局 国際課 ロシアグループとの連携の一環として、北海道とサンクトペテルブルク市との協力発展に関する第3回ワーキンググループ会合（19日）、10月に部局間協定を締結したサンクトペテルブルク国立建築土木と北海道総合研究調査会（HIT）が共催した大学寒冷地建築に関する意見交換会（19日）に参加。また、サンクトペテルブルク日本センターを訪問し、サンクトペテルブルクに進出している日本の企業の支部・工場と現地の大学との連携事業などについて情報収集。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・2019年11月18日、サンクトペテルブルク国立大学国際関係学部で開催された国際セミナー（Arctic Workshop）で発表。	大塚 夏彦
(6) 極東の産業振興	北海道大学				*詳細は「(4) エネルギー開発」の欄に記載	高橋 浩晃

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(6) 極東の産業振興	北海道大学	・森林資源管理 ・環境保護	極東国立農業大学	北海道中川郡中川町	②企業・地方自治体等との連携 ・極東国立農業大学の学部生は2月25～28日に開催された冬の森林生態学フィールドコースに参加し、冬山での森林伐採の現場見学を含む研修を受けた。同伐採は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターと包括的連携協定を結んでいる中川町との技術交流の一環としても開催されており、効率的な林業の実施、環境に配慮した林業等への理解を深めた。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・北海道大学大学院環境科学院修士課程学生1名が10月1～13日に行われた極東ロシアの森林調査およびロシア科学アカデミー極東支部地質・天然資源管理研究所（Institute of Geology & Nature Management）の見学会に参加。	小林 真
(6) 極東の産業振興	千葉大学	・スマート農業 ・温室ビジネス（植物工場、食ビジネス） ・農業工学 ・園芸学	・沿海地方国立農業アカデミー ・極東国立農業大学 ・サハリン国立大学 ・ウスリースク市 ・ノヴォシビルスク国立農業大学 ・ロシア側民間企業（温室・養蜂等）	・農林水産省 ・柏市 ・イワタニアグリグリーン株式会社 ・株式会社 プラネット ・双日株式会社 ・双日食料株式会社 ・ハンモ株式会社 ・NPO 植物工場研究会	①大学間協定に基づく学生交流 ・2017年度から大学間交流協定を締結している沿海地方国立農業アカデミーと多様な園芸学分野、養蜂、森林科学に関わる、サハリン国立大学とは農業及び食品ビジネス、農業行程管理、食品安全に関わる、交流プログラムをそれぞれ実施している。 ・2019年度から大学間交流協定を締結して交流を開始した極東農業大学、ノヴォシビルスク国立農業大学からはそれぞれ学部学生を受け入れて、施設園芸、養蜂に関わる短期プログラムを実施した。 ②企業・地方自治体等との連携 ・ロシア人学生を受入時にイワタニアグリグリーン株式会社の協力により、千葉大学環境健康フィールド科学センター内の施設において短期インターンシップを実施した。また、長期滞在の留学生に対して、2020年3月に豊橋市の株式会社プラネットにおける5日間のインターンシップ受入れの了解をもらっていたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響で中止せざるを得なくなり、急遽、ハンモ株式会社でのインターンシップに変更した。 ・日本人学生の派遣時に、サハリン、ウスリースクの数社の個人農企業を訪問した。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・派遣：沿海地方国立農業アカデミー、サハリン国立大学に短期派遣。 ・2019年5月24日に、沿海地方農業アカデミーと共催で、沿海地方行政政府、関連農企業、日本の企業数社、農林水産省関係者の参加を得て、「有機農業」に関わる第4回日本・ロシア極東農業ビジネスフォーラムをウスリースク・沿海地方国立農業アカデミーにおいて開催し、教職員5名が参加した。 ・2020年2月28日に、沿海地方国立農業アカデミーと共催で、サハリン国立大学、極東農業大学、ノヴォシビルスク国立農業大学等の関係者、官公庁、農業企業の参加を得て、「極東ロシアとの蜂蜜ビジネスの拡大」に関わる、第5回日本・ロシア極東農業ビジネスフォーラムを千葉県柏市において開催する予定であったが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大から2020年度に延期することになった。	高垣 美智子

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(6) 極東の産業振興	新潟大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育種学 ・ 植物病理学 ・ 土壌学 ・ 土壌肥料学 ・ 植物栄養学 ・ 農業機械学 ・ 農業施設学 ・ 食用大豆 ・ 薬用作物 ・ 食品科学 ・ 応用微生物 ・ 森林環境科学 ・ 農業経済 ・ 農業機械 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロシア科学アカデミー極東支部全ロシア大豆研究所 ・ 極東連邦農業バイオテクノロジー研究センター ・ 沿海地方国立農業アカデミー ・ ロシア側民間企業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産省 ・ 新潟市 ・ 農業食品関連企業 	<p>①大学間協定に基づく学生交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年から大学間交流協定を締結している沿海地方国立農業アカデミーとの森林野生動物分野、工業技術分野の交流を発展させた。 ・ 2019年9月9～19日、サマースクール（森林野生動物分野）に学部生・大学院生を派遣し交流の深化を図った。2020年3月にスプリングスクールを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大影響で中止。 <p>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年9月中旬から下旬に農学部公認グローバル人材育成サークルBRIDGE主催の国際学生フォーラムに沿海地方国立農業アカデミーの学部生を招き、Sustainable food system—Stories on one plate—を開催し双方向の交流の発展を図った。BRIDGEは自ら民間助成金を獲得して、学生主体で国際フォーラムを開催している。 ・ ((6) 極東産業振興セクションとしての活動) 7月にセクション準備会を開催（6校・13名）し、各校の取り組みに係る情報共有と諸課題に係る意見交換を行った。 	長谷川 英夫
(6) 極東の産業振興	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋科学 ・ 環境科学 ・ 生態学 ・ 毒性学 ・ 魚病学 ・ 大気科学 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 極東連邦大学 ロシア科学アカデミー極東支部 ・ ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋研究所 		<p>①大学間協定に基づく学生交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所、極東連邦大学に9月8～21日に大学院博士前期課程2年生を2名派遣。 <p>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 准教授1名 9月8～12日にロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所に派遣 ○ 研究者受入 ・ ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所研究者2名（8月26日～8月31日）能登半島七尾湾における海底湧水共同調査 ・ ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所研究者4名（12月16日～12月21日）研究集会 & 環日本海域環境研究センター主催国際会議招聘、金沢開催 ○ 派遣 ・ PACON-2019国際会議出席（invited speaker）極東連邦大学、ウラジオストク（7月15日～7月18日）教授1名 ・ e-ASIA2019国際会議出席 極東連邦大学、ウラジオストク（8月12日～8月15日）教授2名 ・ 共同研究（国際共同利用・共同研究拠点公募共同研究事業） ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所との共同研究（2019～2020年度）「環日本海域沿岸域における海底湧水の実態把握」 ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋学研究所との研究集会（2019年度）「日本海における越境汚染の実態把握」 	長尾 誠也
(6) 極東の産業振興	小樽商科大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育 ・ 人材開発 	極東連邦大学	小樽市	<p>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年1月14日に小樽商科大学法制研究会を北海道大学で開催。報告者: Vyacheslav Gavrillov教授（極東連邦大学法科大学院）。テーマ: "Legal Regulation of Navigation Along the Northern Sea Route"。 	小林 友彦

セッション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携(地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参加者の氏名
(6) 極東の産業振興	大阪大学		極東連邦大学		*詳細は「(8) 言語・文化・観光」の欄に記載	藤原 克美
(6) 極東の産業振興	新潟大学				*詳細は「(2) 都市づくり」の欄に記載	道上 真有
(6) 極東の産業振興	東京農業大学	<ul style="list-style-type: none"> ・食品開発 ・食文化 ・農業振興 ・海洋科学 ・露青年交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・極東連邦大学 ・ LLC Euro-Asian Trading House Innovation (ООО «Евро-Азиатский Торговый Дом «Иновация»») 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体：高知県、茨城県、北海道網走市、岩手県久慈市など42件 ・教育機関：北見工業大学など8件 ・企業：ロイヤルホールディングス、野村証券、日本香堂など26件 ・日立トリプルウィン株式会社 ・株式会社 ホープ ・サクラ化学工業株式会社 	<p>①大学間協定に基づく学生交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の農業を通じた学生文化交流実施。同プログラムでは、極東連邦大学の学生(学部生、大学院生)10名が、学術的な体験を交えて日本の農業と文化を理解し、日本の学生と親睦を深めるための研修を2019年10月16日～23日にわたって行なった。研修は、北海道網走と東京で行い、北海道では日本の最先端の農業と自然を、東京では日本の首都の現状と文化を学んだ。 <p>②企業・地方自治体等との連携</p> <p>極東連邦大学において、イチゴの温室栽培試験を実施。以下の企業との連携事業。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LLC Euro-Asian Trading House Innovation (ООО «Евро-Азиатский Торговый Дом «Иновация»») ・日立トリプルウィン 株式会社 ・株式会社 ホープ ・サクラ化学工業 株式会社 <p>③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極東連邦大学東洋学部地域国際研究学科のChertushkina准教授が東京農業大学生物産業学部在籍して日露の文化に関する教育研究を実施中。 	丹羽 光一
(6) 極東の産業振興	北海道大学	地域開発	<ul style="list-style-type: none"> ・北東連邦大学 ・ノリリスク国立産業大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道 ・北海道総合研究調査会(HIT) ・札幌市 	<p>②企業・地方自治体等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年7月25日、世界冬の都市市長会(WWCAM)の事務局が置かれている札幌市総務局国際部国際課及び2019年の同会実務者会議の開催都市となったノリリスク訪問団との打合せに参加。 ・2019年9月23～27日にヤクーツク市で開催された産学官連携型の北方圏持続可能な開発フォーラム(Northern Sustainable Development Forum)に参加、ロシア各地の大学及び官民団体関係者と交流。同フォーラムに際して北東連邦大学と北海道大学が23日に共催した寒冷地セミナー(Cold Lands Seminar)のセッション1—北極圏及びアジア—コネクティビティ、通信インフラ及び北方圏の地域開発—(Session 1. Arctic and Asia. Connectivity, Communication Infrastructure and Regional Development of the North)において講演(テーマは「Needs and problems of transport and communication infrastructure of the regions of the North」)、北東連邦大学の学生を対象としたワークショップを行った。また、24日の寒冷地セミナー(Cold Lands Seminar)のセッション2—北極圏及びアジア—北極圏及び北方圏の社会経済発展—(Session 2. Socio-Economic Development of the Arctic and the North)において講演。それぞれのセッションには学生やその他のフォーラム参加者が約60名参加。北海道総合研究調査会(HIT)・ヤクーツ国立農業アカデミー・北東連邦大学が共催した、農業における国際事業の企画管理に関する円卓会議に出席。 ・2019年11月13日に、世界冬の都市市長会(WWCAM)の事務局が置かれている札幌市総務局国際部国際課との連携の一環として、ノリリスク市で開催されたWWCAM実務者会議に際して、13日にノリリスク国立産業大学電力産業経済経営学部情報システム・技術学科の学生を対象にオンライン講演(テーマは「Needs and Problems of Communication Infrastructure in the Northern Regions」)を行った。ノリリスク国立産業大学の教職員・学生約30名参加。 	サウナワラ ユハミカエル

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(7) 先端技術協力	大阪大学	・核エネルギー ・原子力 ・素粒子・原子核物理学 ・数値シミュレーション ・計算科学	・極東連邦大学 ・合同原子核研究所	・高知大学 ・名古屋大学 ・九州大学	③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・2019年、極東連邦大学のポスドク（高密度核物質の理論研究、格子QCDによる数値シミュレーション）が3週間滞在し、少人数による研究打ち合わせ会1回とそのポスドクによるセミナーを行った。	保坂 淳
(7) 先端技術協力	北海道大学	生物計測化学	モスクワ国立大学	・東北大学 ・Tianma Japan株式会社	①大学間協定に基づく学生交流 ・モスクワ国立大学と北海道大学は、2011年から「分析・計測技術の開発」に関する共同研究を実施しており、学生を含む人材交流・教育交流（共同研究、セミナーの開催）を行っている。 ・2019年1月にモスクワ国立大学のMikhail A. Proskurnin教授が指導する学生Polina A. Galkina氏が来日し、蛍光偏光免疫分析の高感度に関する研究の他、北海道大学大学院令和元年国際連携総合化学プログラム報告会等に参加し、研究室内外の学生・教員とも人的交流（学生交流や教育交流）を積極的に行った。 ・Galkina氏の研究指導には東北大学多元物質科学研究所の教授が関わり、先端技術協力における複数の大学が連携して学生を指導することにより、効果的な人材育成の事例となった。 ②企業・地方自治体等との連携 ・一部の研究テーマに関しては、JST先端計測分析技術・機器開発プログラムの内容を含んでおり、これに関しては日本のTianma Japanという企業が参画している。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・Proskurnin教授、Galkina氏、東北大学多元物質科学研究所の教授とテレビ会議を行い、実験の進捗及び進め方、継続的な共同研究などについて議論した。	渡慶次 学
(7) 先端技術協力	北海道大学	触媒	・ロシア科学アカデミーシベリア支部ボレスコフ触媒研究所（BIC） ・Nanocomposite Materials Group of companies (NCM)		* 詳細は「(3) 中小企業交流」の欄に記載	西田 まゆみ

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(7) 先端技術協力	東京工業大学	・生命工学 ・ライフエンジニアリング ・原子核工学 ・医用工学 ・環境科学	・モスクワ国立大学 ・モスクワ国立原子力研究大学(MEPHI) ・ロシア科学アカデミー附属タンパク質研究所 ・ロシア科学アカデミー附属細胞生物物理学研究所 ・ロシア科学アカデミー附属微生物化学生理学研究所 ・ロシア科学アカデミー附属理論・実験生物物理学研究所 ・ロシア科学アカデミー附属基礎生物学問題研究所 ・ロシア科学アカデミー附属プーチノ研究センター ・ロシア科学アカデミー附属有機元素化合物研究所 ・ロスアトム(ロシアの国営原子力企業) ・株式会社 味の素-ジェネチカ・リサーチ・インスティテュート(AGRI)	・日本原子力研究開発機構(JAEA) ・味の素 株式会社 ・株式会社 島津製作所 ・日本原子力発電株式会社 ・一般財団法人 電力中研究所 ・福井県 ・技術研究組合 国際廃炉研究開発機構(IRID)	①大学間協定に基づく学生交流 ・モスクワ国立大学・ロシア国立原子力研究大学との学生交流長期3名ずつの受入・派遣と短期12名ずつの受入・派遣を実施。 ・モスクワ国立大学との全学交流協定を締結(2019年9月)。 ②企業・地方自治体等との連携 ・2018年同様、モスクワではAGRIやロスアトムに1~2日間の見学を実施。また日本では味の素株式会社の川崎工場・研究所並びに電力中研究所視察を実施。 ・味の素株式会社、株式会社島津製作所、並びに国際廃炉研究開発機構からR&Dの担当者を招聘し、講演を実施。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・3大学共同の研究交流シンポジウム(第3回日露学生交流フォーラム)を2020年2月20日に東京工業大学すずかけ台キャンパスにて開催。	小原 徹
(7) 先端技術協力	室蘭工業大学	・希土類硫化物熱電材料 ・バイオプラスチック	・ヨッフエ物理学技術研究所 ・ニコラエフ無機化学研究所	・大阪大学 ・金沢大学		平井 伸治 葛谷 俊博
(7) 先端技術協力	金沢大学	・電子情報 ・機械工学 ・数学 ・物理学 ・物質科学 ・ナノ生命科学 ・製薬	・カザン連邦大学 ・極東連邦大学 ・ロシア科学アカデミー極東支部 ・アルタイ国立大学 ・ロシア製薬企業(Visterra社)	・株式会社 PFU ・株式会社 アクトリー ・津田駒工業 株式会社	②企業・地方自治体等との連携 ・2019年9月に金沢大学創薬・薬学専攻の教員1名と大学院生2名が、アルタイ国立大学を訪問し、学生交流・共同研究を促進するとともに、アルタイ山脈近郊の自生薬草の調査、アルタイ地方のロシア製薬企業(Visterra社)視察を行った。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・上記学生交流を通じて、国際同窓会ネットワークを形成し、学生の将来のキャリア形成に活用させる。 ・金沢大学の日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム「基礎科学プログラム」「先端科学技術プログラム」において、カザン連邦大学、極東連邦大学、イルクーツク国立大学、アルタイ大学、サントペテルブルク国立大学及びモスクワ国立大学から計21名の学生を約4週間受け入れた。アントレプレナー合宿、シンポジウム参加、工場見学やインターンシップ等も行った(2019年8~9月)。 ・また、26名の学生をカザン連邦大学、極東連邦大学、イルクーツク国立大学、サントペテルブルク国立大学及びモスクワ国立大学へ、約2~4週間派遣し、うち12名がロシアでの企業見学(「フォード・ソラーズ」(自動車メーカー))に参加した(2019年8月)。	田中 茂雄

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(7) 先端技術協力	東海大学	レーザー技術	・モスクワ国立大学 ・極東連邦大学 ・トムスク国立大学 ・ロシア科学アカデミー極東支部沿海地方科学研究センター	東北大学	・モスクワ国立大学物理学部よりエカテリーナ・コロテエヴァ博士を招へい、2019年12月20日に総合科学技術研究所で開催したシンポジウム「流体工学に関するトピックス」にて講演を行う。コロテエヴァ博士博士は自身が所属するモスクワ国立大学の物理学部、さらにプラズマ流体力学・流れの可視化研究室の活動を紹介し、「高速空気力学の定量的な可視化研究」について解説。約80名の教員や学生らが参加し、活発な意見が交わされた。	山口 滋
(7) 先端技術協力	近畿大学	・再生可能エネルギー ・製品開発、プロジェクトを推進・牽引するグローバル人材の養成	・モスクワ国立大学 ・ドゥブナ国立大学 ・ITMO大学 ・チュメニ国立大学 ・極東連邦大学 ・サンクトペテルブルク国立大学 ・ロシア政府附属財政大学 ・モスクワ国立工業物理研究大学 (MEPhi) ・モスクワ市立大学	・豊田通商株式会社 ・豊田通商ロシア (Toyota Tsusho RUS LLC、モスクワ) ・大阪府 ・ものづくりビジネスセンター大阪 ・「ものづくり」企業10社	①大学間協定に基づく学生交流 ・2018年度よりロシアの交流協定締結校との間で学部学生の1セメスター交換留学プログラムを実施している。 ②企業・地方自治体等との連携 ・2019年度はロシアからの1セメスター交換留学生9名に対して、11月から12月にかけての約1ヶ月にわたり、それぞれの専門分野に応じた「ものづくり」企業10社でインターンシップを実施した。 ・また、短期人材交流受入プログラムでは、大阪府と関係機関が運営する中小企業のためのものづくりに関する支援拠点である「ものづくりビジネスセンター大阪」（東大阪市）や東部大阪地域のものづくり企業の協力を得て、ロシアからの学生15名に対して7月に1日研修を実施し、製造現場を見聞しながら、ものづくりの基本を学習した。	田中 仙君
(7) 先端技術協力	北海道大学	SDGs達成を目指した環境観測における無人航空機 (UAV) の適用	・モスクワ国立大学 ・北東連邦大学		①大学間協定に基づく学生交流 ・モスクワ国立大学地理学部のTutubalina教授との交流を継続。10月中旬に北海道大学で開催した環境観測用の地理空間データに関する日印露シンポジウム (Japan-India-Russia Symposium on Geospatial Data for Environmental Monitoring) にTutubalina教授と大学院生2名・若手研究者 (ポスドク) 1名を招へい。 ・2020年3月にモスクワ国立大学に学生 (修士) を1名派遣予定だったが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大影響で中止。 ③その他 (学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年9月23～27日にヤクーツク市で開催された産学官連携型の北方圏持続可能な開発フォーラム (Northern Sustainable Development Forum) に参加、北東連邦大学が毎年行う寒冷地セミナー (Cold Lands Seminar) のセッション3—北極圏及びアジア—環境観測— (Session 3. Arctic and Asia. Environmental Monitoring) に北海道大学北極域研究センターの杉本教授とともに参加し、「環境観測用の複数センサーリモートセンシング技術」 (“Multisensor Remote Sensing Techniques for Environmental Monitoring”) について発表。北東連邦大学、ヤクーツ国立農業アカデミー及びヤクーツ国立農業研究所の研究者・学生と交流。	アバタララム
(8) 言語・文化・観光	東海大学	ライフケア			* 詳細は「(1) 医療健康」の欄に記載	山本 佳男
(8) 言語・文化・観光	小樽商科大学	・APEC ・国際貿易に関する経営学・経済学・法学 ・地域振興への大学の貢献			* 詳細は「(6) 極東産業振興」の欄に記載	小林 友彦

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	小樽商科大学	・日露観光 人材交流・ 育成 ・日本語教育 ・バレエ等 の文化面	・ナホトカ市	T.T.T.ABROAD ACADEMY	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・小樽商科大学社会連携実践「本気プロ」ロシアとの交流による小樽活性化チーム ・参加学生:5名 ・担当ディレクター:高野宏康(小樽商科大学グローバル戦略推進センター) ・連携先:T.T.T.ABROAD ACADEMY(主宰:高橋匠美) ・主な活動内容: ○日本語ロシア語会話フレーズ集の作成。ロシア人用(2019年5月)、日本人用(2020年2月)。 ○小樽の祭礼でロシアと小樽にちなむ食品調理、販売。 ○ナホトカ市・小樽市姉妹都市交流事業(7月のナホトカの少女少女使節団(13名)の受入等)への協力(ガイドツアー、日本語会話レッスン、交流会など)	高野 宏康
(8) 言語・文化・観光	北海道大学	・持続可能な開発のための教育(ESD) ・ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム	・サハリン国立大学 ・ウラル国立教育大学		①大学間協定に基づく学生交流 ・教育学部では6大学5か国間の双方向型短期留学支援プログラム「ESD Campus Asia Pacific」において、交流協定校のひとつであるサハリン国立大学教育学部との交流を2017年度より開始している。 ・同時に「ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム」として、同2017年より同大学と3か月間の単位互換・双方向型・短期留学プログラムも開始した(学士課程の学生を2~4名派遣)。交流プログラムは、国連が掲げるSDGsを達成するための学びを異文化理解、多言語教育の観点から深め、他国での実践的経験を通じて、将来に渡る幅広い社会的教育指導者の育成を目的とする包括的な教育を目指すものである。 ・2019年度8月に10日間の短期受入プログラム、9月に10日間の派遣プログラム、12月から2月にかけて3か月の派遣プログラムを遂行。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年9月に教員2名、大学院生2名が2008年から北東連邦大学で継続されているCold Lands Seminarの一環として計画された「先住民族と持続的な開発」というパネルに参加し、40名近くの教員や学生の前で、アイヌ民族の社会的課題や教育学部のESDキャンパス・アジア・パンフィックについて発表を行った。大学院生たちは日露共同専門教育プログラムRJE3(Russia-Japan Educational Program)の卒業生をはじめ、北東連邦大学で勉学に励んでいる幅広い大学院生との交流し、知見を広げた。 ・2019年11月12日に大学間協定に基づく学生交流の延長上にジョイント・リサーチプログラムを可能とする試みを実施(サハリン国立大学・ウラル国立教育大学と北海道大学との間で、3大学オンラインワークショップ)。「日露比較からみる現在の位相:地域教育、教育心理学、教育学研究を通じて」と題し、北海道大学より12名、サハリン国立大学より約20名、ウラル国立教育大学より約7名の教員の参加があった。トピックは多岐に渡り、今後の継続的な研究連携の可能性について協議を行った。すでに特定領域の共同研究については個別の進展が見られた。	池田 恵子
(8) 言語・文化・観光	北海道大学	・東アジア・極東ロシア地域における移住プロセス ・異文化コミュニケーション	・サハリン国立大学 ・サハリン人文工科大学 ・サハリン州国立歴史文書館 ・サハリン州立美術館 ・サハリン州国立郷土博物館 ・ノヴォシビルスク国立工科大学		③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2020年1月14日(火)から15日(水)まで「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト(Tandem Language Learning Project: TLLP)・ワークショップ」を開催。シェフィールド大学大学院生3名と教員1名、北海道大学メディア・コミュニケーション学院大学院生3名、ノヴォシビルスク国立工科大学学生1名による研究発表やディスカッション、教員による講義やワークショップなど、様々な研究・教育交流を行った。TLLPの趣旨に基づき、北海道大学の学生とロシアからの学生は英語で、シェフィールド大学の学生のうち2名は日本語で研究発表を行った。	パイチャゼ スヴェトラ ナ

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	東北大学	日露異文化交流	モスクワ国立大学	一般財団法人 東北多文化アカデミー(予定)	①大学間協定に基づく学生交流 ・JSDプログラム:モスクワ国立大学心理学部大学院博士課程1年次学生を1名受入(2018年度後期~2019年度前期の1年間)、学位取得のための実験心理学的な研究手法について指導した。 ・短期交流プログラム:モスクワ国立大学心理学部学生1名を2019年9月より1年間の予定で受け入れた。また、東北大学文学研究科博士前期課程学生1名が、モスクワ国立大学心理学部を訪ね、10日間ほど滞在し、授業の聴講、学生との交流などを行なった。 ・モスクワ国立大学心理学部から東北大学文学研究科に長期留学する学生が出てくることが期待される(過去3名×半年間の実績あり)。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・短期交流プログラム:2019年10月から半年間、モスクワ国立大学心理学部の教員1名の研修を受け入れ、東北大学の学生に授業を提供してもらった。その成果として、東北大学文学研究科の学生1名が2020年度のモスクワ国立大学への派遣に応募することになった。	阿部 恒之
(8) 言語・文化・観光	東京外国語大学	・人文社会科学分野 多様なビジネス分野に関わる応用力を備えた、卓越した日露ビジネス人材を育成 ・貿易・金融、観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳、報道、文化交流等の多様な分野で日露経済活動を活性化	(交流協定締結先) ①モスクワ国立大学 ②モスクワ国立国際関係大学 ③ロシア国立人文大学 ④国立研究大学高等経済学院 ⑤サンクトペテルブルク国立大学 ⑥極東連邦大学 ・モスクワ市立大学(協定校ではない) (JVTA主催、東京外国語大学が共催する日本アニメ上映イベント@モスクワ 2020.05.23-24での「協力校」) (インターンシップ受入ロシア企業) ・LLC RYATICO(モスクワ) (「実業ロシア」のメンバー企業で、日露間を中心に食品・雑貨の輸出入に取り組み始めた貿易会社)	(学生交流相手) ・創価大学 ・創価学園(高等学校) ・稲城市立若葉台小学校 (インターンシップ受入先) ・日本映像翻訳アカデミー ・ジェトロ ・ソニー ・日立建機日本 ・横河電機 ・伊藤忠商事 ・三井物産 ・住友商事 ・ヤマハミュージッククリエティング ・京セラ ・京セラドキュメントソリューションズ ・飯田グループホールディングス ・ジェーアイシー ・名取事務所 ・国際交流基金 ・SAMI LLC	①大学間協定に基づく学生交流 ・短期受入:2週間の「日露ビジネスサマースクール」実施 ・長期受入:日本語及び日本の文化・社会・経済を学ぶ科目を履修 ・短期派遣:学部前半のロシア語専攻学生ロシア語・ロシア文化を学習 ・長期派遣:6協定大学でロシア語や他の一般科目を履修 ②企業・地方自治体等との連携 ・JVTAでのインターンシップ(東京):映像翻訳者の養成と映像翻訳の受託業務を行っている中堅企業「日本映像翻訳アカデミー(JVTA)」(東京)で東京外国語大学の学生とロシアからの受入学生が毎月、1名ずつインターンシップを経験している。インターンシップの最終日に、モスクワに拠点を持ったばかりのJVTA幹部を前にロシア市場における事業提案のプレゼンテーションを行う。 ・J-ANIME MEETING IN RUSSIA:前述のインターンシップ実施でJVTAと協力関係を深め、同社が主催、東京外国語大学が共催する形で、2020年5月23、24日にモスクワで日本アニメを紹介するイベント「J-ANIME MEETING IN RUSSIA」を開催する運びとなった(同年11月14~15日に延期されることになった)。2019年11月より日露の学生45名が参加し、本格的な準備に入った。2日間に長編・短編計16本のアニメをロシア語字幕付きで上映する予定。アニメの選択、(日本語からロシア語の)字幕翻訳、PR、協賛企業候補へのアプローチ等について、JVTAスタッフの指導を受けながら、日露の学生が一緒に考え、議論を交わし、そして行動にしている。こうしたチームで一つの事業に取り組むプロセスを通じて「交渉力」「調整力」など社会に出て役立つコンピテンシーを育むことにつながっている。 ・他のインターンシップ実施企業・団体:他に日本の商社(三井物産、住友商事、伊藤忠等)、メーカー(日立建機、ソニー、京セラ、ヤマハ等)、ロシアの会社(RYATICO、SAMI)、ジェトロ等 ・就業体験科目:冬学期にモスクワと東京で就業体験科目を設定し、モスクワで2人、東京で1人が履修した。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・週に1度、ロシアからの留学生と東京外国語大学のロシア語専攻学生のためにタンドム学習会を実施した。語学力向上と交流を深めることを目的としている。 ・三井物産のロシア法人は、現地採用候補者のロシア人学生4~5名をほぼ毎年、日本に1週間程度研修させている。同社に勤める東京外国語大学OBの依頼で、半日のみ東京外国語大学の学生と交流する「日露学生交流セミナー」を実施している。セミナーでは異文化間の相互理解をテーマに議論する。2018年の同セミナーのメンバーだった、東京外国語大学の協定校・サンクトペテルブルク国立大学の学生2名が、翌年の東京外国語大学サマースクールに参加した。	沼野 恭子
(8) 言語・文化・観光	新潟大学				*詳細は「(2)都市づくり」の欄に記載	道上 真有

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	大阪大学	日露教育交流・人材育成ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・モスクワ国立大学 ・ロシア民族友好大学 ・サンクトペテルブルク国立大学 ・ウラル連邦大学 ・ノヴォシビルスク国立大学 ・トムスク国立大学 ・シベリア連邦大学 ・極東連邦大学 		<p>①大学間協定に基づく学生交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンクトペテルブルク国立大学（大学間）、モスクワ国立言語大学、ウラル連邦大学、シベリア連邦大学（以上部局間）学生派遣、受入。 <p>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・デザインセミナーを開催。在ユジノサハリンスク日本国総領事、在アゼルバイジャン特命全権大使等を歴任した元外交官が、ロシアとの交流の可能性について講演。学生が18名（含ロシア人1名）が参加。 	藤原 克美
(8) 言語・文化・観光	上智大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語 ・ロシア文化社会 ・グローバル社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・モスクワ国立大学 ・モスクワ国立言語大学 ・サンクトペテルブルク国立大学 ・サンクトペテルブルク国立文化大学 ・ゲルツェン記念ロシア国立教育大学 ・リャザン国立大学 ・ヴォロネジ国立大学 ・ペトロザヴォーツク国立大学 ・極東連邦大学 		<p>①大学間協定に基づく学生交流</p> <p>現在9大学（モスクワ国立大学、モスクワ国立言語大学、サンクトペテルブルク国立大学、サンクトペテルブルク国立文化大学、ゲルツェン記念ロシア国立教育大学、リャザン国立大学、ヴォロネジ国立大学、ペトロザヴォーツク国立大学、極東連邦大学）と交換留学協定を締結しており、ロシア語、ロシア文化社会、グローバル社会の分野において、単位互換に基づく学生交換を実施している。2019年度においても継続的に各大学と双方向の学生交換を行っており、春学期には6大学に8名の学生を派遣し、秋学期にはさらに1大学に3名の学生を派遣した。また、受入については、春学期に3大学から4名、秋学期に4大学から5名の学生を受け入れた。また6~7月のサマーセッションにも2大学から2名受け入れた。</p>	杉村 美紀
(8) 言語・文化・観光	神戸学院大学	日本のアニメ・サブカルチャー	<ul style="list-style-type: none"> ・ニジニーノヴゴロド国立言語大学 ・極東連邦大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市 ・神戸市外国語大学 	<p>①大学間協定に基づく学生交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニジニーノヴゴロド国立言語大学：8月22~9月22日 2名、10月28~11月28日 2名。 <p>②企業・地方自治体等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年9~11月にニジニーノヴゴロド国立言語大学学部生1名、大学院2名を対象にインターンシップを実施。受け入れ先は神戸市国際課、神戸市海外ビジネスセンター、JETRO神戸、ひょうご海外ビジネスセンターおよびロシアに日本製の様々な製品を輸出している株式会社竹本トレーディング。 <p>③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年10月に「北方四島ビザなし交流」事業のロシア島民の訪問団24人を受入、法学部、人文学部、現代社会学部、経済学部の学生との交流を行った。 ・2019年11月に極東サブカルチャー交流を極東連邦大学で実施（日露青年交流センターの支援で訪露プログラム「東方学生サブカルチャー交流プログラム」を実施）。 	岡部 芳彦

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	神戸市外国語大学	・学術面・・・人文学、特に語学、通訳・翻訳学、外国語教育・教育面・・・共同研究・教材開発・共同論文指導(コチュテル)・招聘研究者による講義・相互の遠隔講義 ・自治体と大学との連携・仲介による相互の学生インターン受入れ支援、コミュニティ通訳養成	・モスクワ国立大学 ・国立プーシキン記念ロシア語大学 ・クバン国立大学 ・ウラル連邦大学 ・太平洋国立大学 ・エカテリンブルグ市	・総務省 ・神戸市 ・神戸大学 ・神戸学院大学	①大学間協定に基づく学生交流 2019年度・・・ ・クバン国立大学(交換) 派遣2名 ・ウラル連邦大学(交換) 派遣1名 ・太平洋国立大学(交換) 派遣2名 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・平成31年度北方四島交流後継者訪問共催事業(6月6日～11日)の「第4回アニメ・オタク文化青年サミットin色丹」(代表:神戸学院大学・岡部芳彦教授)の学生通訳として1名を派遣。	岡本 崇男
(8) 言語・文化・観光	創価大学		・モスクワ国立大学 ・極東連邦大学 ・ロシア民族友好大学 ・モスクワ国際大学 ・トルストイ記念トゥーラ国立教育大学 ・ブレハーノフ記念ロシア経済大学 ・ロシア国立人文大学 ・北東連邦大学 ・バイカル国立大学 ・ルースキー・ミール基金	東京外国語大学	①大学間協定に基づく学生交流 ・10ヶ月交換留学:モスクワ国立大学4名、極東連邦大学1名、ロシア民族友好大学3名 ・サンクトペテルブルク・ロシア語短期研修:ゲルツェン記念ロシア国立教育大学と交流協定を結び、8月に第1回ロシア語短期研修(2週間、16名)を行った。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ルースキー・ミール基金と共同で次の活動を実施。 ・6月 プーシキン生誕220周年記念イベント実施。 ・7月にロシア連邦のドミトリー・ビリチェフスキー駐日公使、12月にミハイル・ガルージン駐日大使による講演を行った。 ・12月 第29回ロシア語スピーチコンテスト実施。	江口 満
(8) 言語・文化・観光	札幌大学	文化交流 外国語教育	北東連邦大学 モスクワ国立大学 サハリン国立大学		①大学間協定に基づく学生交流 ・協定校(北東連邦大学、モスクワ国立大学、サハリン国立大学)への学生派遣、北東連邦大学からの学生受入。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年5月10日～13日の国後島訪問に札幌大学の学生が1名、6月7日～19日の色丹島訪問に学生が4名参加。 ・2019年7月16～8月15日、北方四島交流受入事業使節団と学生との交流(日本語習得)のうち、札幌市内見学、交流会、スピーチコンテスト、歓送会に札幌大学の学生が参加し、ロシア人参加者と交流した(参加学生はのべ17名)。	岩本 和久

セクション名	日本側大学名	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	2019年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	北海道大学	先住民に関する研究	北東連邦大学	北海道平取町	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・2019年9月23~27日にヤクーツク市で開催された産学官連携型の北方圏持続可能な開発フォーラム(Northern Sustainable Development Forum)に教員2名と大学院生2名(修士1名、博士1名)を派遣し、その一環として北東連邦大学と共同で行った寒冷地セミナー(Cold Lands Seminar)のセッション4—北極圏及びアジア—文系—(Session 4. Arctic and Asia. Humanities)に参加し、発表した。 ・寒冷地セミナーで知り合った北東連邦大学のSidorova准教授との共同企画として、2020年3月25日にテレビ会議による北東連邦大学の教員及び学生等との合同研究会を開催。	ゲーマン ジェフリー ジョセフ
(8) 言語・文化・観光	北海道大学				*詳細は「(2)都市づくり」の欄に記載	杉本 敦子
(8) 言語・文化・観光	北海道大学				*詳細は「(5)産業多様化促進」の欄に記載	大塚 夏彦
(8) 言語・文化・観光	札幌市立大学				*詳細は「(2)都市づくり」の欄に記載	山田 良